

支援機器等教材活用実践懇話会実施要項

主催 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

1 目的

支援機器や教材教具を活用して児童生徒の生活や学習を支援している実践者が、それぞれが試作した教材や試行している実践について報告し、情報や支援技術に関して協議したり、実際に教材教具を製作したりすることを通じて、実践力を高めるとともに、それぞれの勤務校や地域にその知見を広く拡大する力の涵養を目的とする。

2 日程

平成31年3月25日（月）から3月26日（火）までとする。

3 会場

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 大研修室（研修棟2階）

4 対象

- ①所属校、所属都道府県内で支援機器等教材を活用した支援について豊かな経験と実践があり、若手教員にその情報や技術を伝えたいという意欲のある教員
- ②経験や実践は少ないものの、支援機器等教材を活用した支援について興味があり、積極的にその情報や技術を学びたいという意欲のある教員

5 実施内容

- ①参加者は、A「タブレット端末」、B「操作スイッチ、教材・教具、その他」、C「視覚支援等」、D「視線入力」の内、いずれか参加を希望するブロックのテーマに対応した機器活用実践報告及び機器紹介を行うことを原則とする（各ブロック定員10名）。
- ②キーノート発表者を中心に実践や教材教具について発表し、情報交換を行う。
- ③各ブロックは障害種別を問わずに構成し、参加者は実践報告を行うことを通じて、相互に情報交換し、実践につながる新しい視点やアイデアを得ることを目的とする。
- ④発表時間以外にも自由交流の時間を設定し、実践や教材教具に関する情報交換を行う。
- ⑤参加者は2日間参加し、自らが発表するブロックだけではなく、他のブロックの時間にも参加し、情報交換を行うことを原則とする。
- ⑥研修プログラム試案検討については、実際に作成した試案を参加者が擬似的に体験し、その上で意見を聴取し、協議する。その内容を反映させた研修プログラムを今年度（次年度）の地域展示会、研究所セミナー等で実施していく。

6 参加定員

- ①参加定員は40名（各ブロック10名）とする。
- ②申込方法 研究所ウェブサイトにあるフォーマットへの入力にて行う。
<http://www.nise.go.jp/sc/pro/>
- ③参加申込締切

平成31年1月31日（木）とする。

7 日程（予定）

○3月25日（月）（1日目）

開会式（9時00分）（大研修室）

Aブロック（9時20分～10時50分）

・タブレット端末を活用した実践

ICT等機器の中でも、もっとも一般的になりつつあるタブレット端末に関する実践について、その可能性と課題について情報交換および実践報告を行う。

キーノート 研究所主任研究員 新谷洋介

Bブロック（11時00分～12時15分）

・操作スイッチ・教材教具・その他

子供達とのコミュニケーションを生み出すためのローテク教材やおもちゃ、操作スイッチ等について、市販品、自作を問わず情報交換を行う。

キーノート 研究所総括研究員 杉浦 徹

昼食休憩（12時15分～13時15分）

自由交流（13時15分～13時50分）

試作した支援機器等を展示し、参会者が自由にコミュニケーションを取りながら情報交換を行う。

研修プログラム疑似体験及び試案検討（14時00分～14時50分）

ICT等機器を含む教材・教具に関する情報や技術、その価値と意味を伝達するための教職員向けの研修プログラムの試案を参加者で疑似体験する。その課題や改善点等について意見交換を行う。

講演「支援機器・教材教具に期待されること（仮題）」（15時00分～16時30分）

金森克浩氏（日本福祉大学スポーツ科学部教授）

懇親会（17時30分）

○3月26日（火）（2日目）

Cブロック（9時30分～12時00分）

・視覚支援の工夫・コミュニケーションシンボルの活用

支援のもっとも基本とも言えるシンボルや絵カードを用いたコミュニケーションについて、その可能性と課題について情報交換および実践報告を行う。

キーノート 長野県稲荷山養護学校 自立活動専任教諭 青木高光氏

昼食休憩（１２時００分～１３時００分）

Dブロック（１３時００分～１５時３０分）

- ・視線入力を活用した支援の実際

近年、肢体不自由のある児童生徒への適用が盛んに行われている視線入力によるコミュニケーション支援について、その可能性と課題について情報交換および実践報告を行う。

キーノート 島根大学 総合理工学研究科機械・電気電子工学領域 助教 伊藤史人氏

閉会式（１５時３０分～１５時４５分）

1日目(25日)

9:00 9:20 10:50 11:00 12:15 13:15 13:50 14:00 14:50 15:00 16:30 17:30

開 会 式	Aブロック	Bブロック	昼 食	自由交流	研修プログラム 疑似体験		講演会		懇親会
-------------	-------	-------	--------	------	-----------------	--	-----	--	-----

2日目(26日)

9:30 12:00 13:00 15:30 15:45

Cブロック	昼 食	Dブロック	閉 会 式
-------	--------	-------	-------------

8 宿泊施設

参加者は、原則として当研究所の研修員宿泊施設に宿泊すること。

9 懇話会期間中に要する経費（詳しくは別紙参照）

- ①参加費は無料とする。
- ②宿泊施設（宿泊料 1,600 円前納制）・食堂（朝食 390 円、昼食 550 円、夕食 650 円）の利用については各自の負担とする。
- ③利用日までに、料金の改定が行われた場合は、新料金を適用する。
- ④試作教材等運搬費及び懇親会参加費は実費個人負担とする。

別紙

研修期間中に要する経費 (支援機器等教材活用実践懇話会)

1. 宿泊に伴う経費

【研修員宿泊棟宿泊料】

1泊 1,600円

* 宿泊料には、光熱水料等相当額、寝具リース・クリーニング代を含みます。

* 生活用品（石けん、ゴミ袋等）は各自負担となります。

* 宿泊料は、予め金融機関振込によるものとし、振込方法等は参加者において連絡します。

* 原則として既納の宿泊料は返還できません。

【研修員宿泊棟居室概要】

* 全室ユニットバス・トイレ・エアコン付きの個室です。

* 机、椅子、ベッド（衣類整理箱付き、時計なし）、ロッカー、電気スタンドを備え付けています。

* 共用スペースに洗濯機、衣類乾燥機、掃除機、冷蔵庫、電子レンジ、アイロン等を備え付けています。

2. 食事代

【研修員食堂定食料金（平成30年10月現在）】

2,140円

（内訳：初日昼食550円、夕食650円、2日目朝食390円、昼食550円）

* 当研究所構内の研修員食堂にて初日の昼食、夕食、2日目の朝食及び昼食を用意しますので、受付時に4食分の食券をご購入ください。

* 研修員宿泊棟内での自炊は禁止しています。

3. 試作教材等の運搬費

参加者の個人負担になります。

4. 懇親会参加費

3,000円（予定）

参加等は自由です。参加費は個人負担になります。